

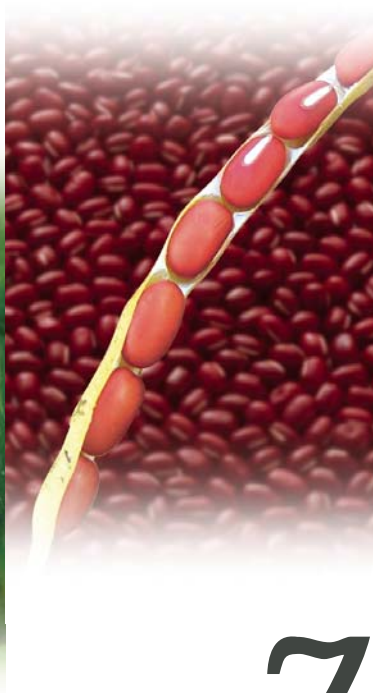
毎月1日はあずきの日。



株主のみなさまへ



あずきの花
(北海道十勝小豆農場)



72 期 中間報告書

平成20年4月1日 ▶ 平成20年9月30日

Be always for Customers!

 井村屋製菓株式会社

企業理念

楽しい商品すぐれたサービス

井村屋製菓は、「母と子」の「楽しい味づくり」をテーマに、素材を厳選し、伝統と先端の技術を融合させることにより、家庭における「食」を通じての手軽な楽しいひとときを提供してまいります。井村屋製菓のコーポレートマークは、「母と子の楽しいひととき」をシンボライズしたデザインとなっています。そしてコーポレートマークを彩るコーポレートカラーには、井村屋製菓の企業姿勢を表現。「赤」は母と子の愛を、「青」はすぐれたサービスを提供する誠実さを、「黄」は楽しい商品を生み出す創造性を象徴しています。



グループポリシー

Be always for Customers!

社員一人ひとりがいつもお客様の立場に立ってお客様のことを意識しましょう。その思いをひとつの言葉に託し、グループポリシーとしました。

目次

- 1 株主のみなさまへ
- 2 営業の概況
- 4 第2四半期連結財務諸表
- 6 商品のご案内
- 8 トピックス
- 9 株式の状況・役員の状況

会社概要

社名	井村屋製菓株式会社
本社所在地	三重県津市高茶屋七丁目1番1号
取締役社長	浅田 剛夫
創業	明治29年（1896年）
設立	昭和22年（1947年）4月
資本金	22億5,390万円
従業員数	651名（平成20年9月30日現在）



井村屋の肉まん・あんまん・カレーまん・ピザまんは国内生産。保存料、化学調味料、香料を一切使用しておりません。電子レンジで手軽においしくできる井村屋の肉まんは、栄養もたっぷり。忙しい朝、お母さんの強い味方です。井村屋肉まん・あんまんを食べて朝から「シャキーン」といきましょ。 「水を抱く」新製法で生地もふっくらおいしくなりました。詳しくはウェブでご紹介しております。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第72期上半期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）を終了し、中間報告書をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

米国の証券会社大手の破綻に端を発した未曾有の金融危機は全世界に波及し、世界的な経済不安が広がる中、食品業界においても食品の安全を根本から脅かす事件が後を絶たず、当社を取り巻く環境も日々激変し、熾烈な市場競争にさらされております。

そのような状況の中、当社グループは「サステナビリティある発展」を目指して、上半期の活動に取り組んでまいりました。前年同期との比較において各利益ベースで改善できましたことは、様々な経営課題の解決のため実行してきた諸施策の効果が出てきたものと確信しております。下半期におきましてもステークホルダーの皆様にお約束した目標数値の必達に向けて挑戦を続けてまいります。

この度、念願でありました本社新社屋が完成し、10月28日に竣工式を迎えることができました。関係各位に対して感謝と御礼を申し上げるとともに、コンセプトとして掲げた【食と情報とコミュニケーションの創造広場】の具現化のため、従業員一人ひとりが新たな気持ちで業務に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長

浅田剛夫



営業の概況

業績の概況

当第2四半期連結累計期間の売上高については、第2四半期において7月の猛暑に恵まれた「あずきバー」「氷みつ」などの夏期商品や、当社の得意分野として注力してまいりました「ゆであずき」「お赤飯の素」などの小豆商品は伸長しましたが、当期価格改正をいたしました「水ようかん」等の菓子商品や一時のブームが鎮静化した「寒天商品」等のチルドデザートが減少し、退店による影響もあったフードサービス事業や健康食品・機能性食品の売上が減少した調味料事業などの低調によって、連結売上高は前年同期比98.3%の158億7百万円となりました。

収益面では、流通部門において小豆、小麦粉、包材などの使用原材料の高騰による原価の上昇が続きましたが、当期間においては想定内の範囲に止まりました。前期の大きな減益要因でありました製品や原材料の廃棄ロス減少、運賃・保管料の削減を目指して取り組んでおりますSCM活動、あるいは津工場の人件費を中心にした経費削減活動などが効果を上げ、収益向上に寄与しました。その一方、調味料事業においては原材料・副資材の値上げや動燃費の高騰に対して適切な販売価格への転嫁が遅れ収益改善にはつながりませんでした。

営業面では、まず夏場の主力商品のひとつである「水ようかん」について「価値と価格の整合性」を伴った商品の変革による利益率の向上を図りましたが、予測以上の販売量減退によって収益を増加するまでの効果は得られませんでした。しかし、従来からの商慣習であるリベート制度の変革と返品減少を掲げて取り組んでおります「新取り組み制度」の推進は、お取引先様からの理解によって徐々に収益改善の効果として表われております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経常利益は2億8百万円（前年同期比139.4%）となりました。連結子会社である日本フード株式会社や株式会社ポレアの業績は好調に推移しましたが、井村屋製菓株式会社が保有する投資有価証券の減損処理や、8月に退店いたしましたアンナミラズ赤坂店に係る固定資産の減損損失などに税効果会計を加えた個別業績の影響もあり、四半期純利益は66百万円に止まりました。（前年同期は△26百万円の純損失）

<流通事業>

（菓子・食品・デイリーチルド）

菓子につきましては、主力である夏場の水ようかん

やギフト商品の販売量減少で前年同期比87.3%になりました。新取り組み制度への移行に伴い、販売戦略の見直し（NET価格による取引の透明性と業務コスト削減、環境貢献取組強化による返送品ゼロ化等）を行い、物量ベースでは落ち込みがありましたが、量から質の転換をした事により利益面での改善をはかることが出来ました。また市場での公平性も実行でき、価値観を認めて頂くことができました。返送品ゼロ化については食品業界として問題も大きくなっていく時であり、小売業や中間流通業の賛同も徐々に高まってきています。生販協働での削減対応効果がでており、春・夏物商品の返品が始まる時期となる10月以降は大きい改善が見込めております。

食品では、「ゆであずき」を中心にした缶詰商品が112.9%と大きく売上を伸ばし、昨年11月に発売いたしました新しい形態の「パウチゆであずき」も順調にシェアを伸ばし貢献しました。「氷みつ」は物量ベースでは前年並みでしたが、猛暑の影響と新取り組み制度への移行により、売上金額ベースでは前年同期比111.8%となりました。「調味食品」は“あずきの日（毎月1日）”の販売促進策を企業全体にて推進し、「毎月1日には赤飯を食べよう」「家族の誕生日には赤飯を炊いて祝おう」をキャッチフレーズにして、健康と伝統食をPRした結果、発売以来好調に推移してまいりました「お赤飯の素」が今期も122.7%と大幅に売上を伸ばすことが出来ました。子会社であります日本フード株式会社では清涼飲料「スパウチ商品」の受託が大幅に増加し、グループ全体に貢献しました。食品は厳しい市場環境でしたが、あずき商品の貢献により前年同期比106.8%となりました。

デイリーチルド商品では、「豆腐」について、コラーゲンや黒豆などの機能重視の商品を発売しましたが、既存商品の落ち込みにより前年同期を下回りました。寒天などデザート商品の大幅な落ち込みが影響してデイリーチルド商品全体では前年同期比69.2%に終わりました。しかし、主力商品である「大豆ッ子」シリーズも下期に向けては大豆の美味しさを全面に出した「大豆屋和蔵」ブランドを構築して新たな市場展開の準備をはかりました。

（加温・冷菓・冷凍菓子）

加温商品はこの期間においては販売金額は多くありませんが、年間販売に向けてまず春の販売店舗数



増加活動を行うとともに、本格シーズンを迎えるに当り、主原料の小麦をはじめとした原材料価格の高騰に対して、高質化を意識した大幅な商品の改廃、価格改定とターゲットを絞り込んだ商品展開を図り、8月4日より今期の販売をスタートいたしました。この通年化の企業努力、高質化が功を奏し加温商品全体の売上高は前年同期比107.4%で推移いたしました。

冷菓につきましては、猛暑の後押しもあり、7月までは前年比119%で推移しました。特に弊社の強みである和風商品の集中販売、シェア拡大を積極的にはかためるために主力商品である「あずきバー」を柱に「宇治金時バー」、「ミルク金時バー」3品に集中してTVCM、消費者キャンペーンを通じた販売促進活動を実施、消費者へのPR活動を行ったバックアップも大きく功を奏したものと推測いたします。中でも「あずきバー」は過去最高であった前年を上回る前年同期比8.4%増の1億5,500万本という販売量を記録し、念願であった年間2億本の販売を達成する目途がたちました。この結果、冷菓全体では前年同期比105.7%と伸長いたしました。

6月より新たな事業として冷凍菓子事業をスタートさせました。ターゲットマーケティングを明確にした市場性をテスト販売で把握し、9月より当社の強み（和菓子、冷凍流通）を活かして全国販売を展開しました。今後の菓子事業の一つの核として捉え市場拡大を目指します。

以上により、流通事業全体の売上高は、131億12百万円（前年同期比100.0%）となり、営業利益は7億67百万円（前年同期比121.5%）となりました。

<フードサービス事業>

アンナミラズにおきましては、昭和49年に開店以来長年にわたりご愛顧いただいた赤坂店を8月末をもちまして閉店いたしました。また既存2店舗（高輪店、横浜ランドマークプラザ店）も、ディベロッパであるショッピングセンターの集客減とともに苦戦を強いられました。そのため売上高は2億36百万円（前年同期比87.8%）に減少いたしました。

ジュヴォー事業は既存6店舗において積極的に母の日や父の日などイベントを取り込み、百貨店の催事販売などにおいてもジュヴォーブランドの認知度が徐々に高まってきた結果、前年比104.8%と伸長させました。

また、アンナミラズ、ジュヴォーブランドの流通

商品化にも取り組んでおります。

以上の結果、フードサービス事業全体の売上高は3億22百万円（前年同期比91.5%）と減少しましたが、前期の減損会計によって当期の償却、リース負担が軽減されたこともあって、営業損失は90百万円（前年同期営業損失1億7百万円）となりました。

<調味料事業>

売上面においては、前年大きく寄与した機能性食品と健康食品関連商材の大幅な落ち込みを、新規受託加工商材と既存得意先の深堀り等による売上増ではカバー出来ませんでした。中国の食中毒事件の影響によって、北京京日井村屋食品有限公司（JIF）からの輸入が2ヶ月以上停止し、国内生産への切替えによる対応にも苦慮しました。その後もJIF品の輸出に対する検査が一層厳しくなった事によって販売機会損失が起り、売上への影響が続きました。また、原材料・副資材の度重なる値上げや動燃費の高騰に対して、適切な販売価格への転嫁がスムーズに行われず、調味料事業全体の売上高は23億53百万円（前年同期比90.4%）と減少し、営業利益面においても当期は営業損失62百万円（前年同期営業利益52百万円）となりました。

<その他の事業>

イムラ株式会社では、ISOダブル認証を前期に取得し、品質・環境マネジメントシステムを経営に生かし、継続的改善に取り組んでおります。クリーニング取次業では、会員獲得が順調に推移し売上は伸長しました。また保険代理店事業・リース代理事業に関しても着実に目標達成が図れました。不動産管理事業のヴィル・グランディール賃貸住宅においては、景観に配慮した植栽管理と、枯葉・除草などを環境に配慮した「循環型へと仕組みを変える」堆肥処理を敷地内で実施しています。また企業内託児所では従業員の大切なお子様をお預かりして1年目を迎え、「より安全・安心な託児所」として運営管理を行なっています。以上の結果、売上高は17百万円（前年同期比110.7%）と伸長しましたが、営業利益面では営業損失1百万円（前年同期営業利益1百万円）となりました。



第2四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期連結会計期間末 平成20年9月30日現在	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 平成20年3月31日現在	科目	期別	当第2四半期連結会計期間末 平成20年9月30日現在	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 平成20年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産		9,373	8,112	流動負債		10,164	7,749
現金及び預金		833	940	支払手形及び買掛金		3,970	3,097
受取手形及び売掛金		5,643	4,799	短期借入金		1,655	1,405
商品及び製品		1,423	1,184	賞与引当金		498	437
仕掛品		259	225	未払金		2,510	1,890
原材料及び貯蔵品		591	491	その他の流動負債		1,529	918
その他の流動資産		631	480	固定負債		2,458	3,319
貸倒引当金		△9	△8	長期借入金		462	1,281
固定資産		14,016	13,891	退職給付引当金		621	628
有形固定資産		11,448	11,221	その他の引当金		107	137
建物及び構築物		4,794	4,925	その他の固定負債		1,266	1,272
土地		4,193	4,193	負債合計		12,623	11,068
その他の有形固定資産		2,460	2,101	(純資産の部)			
無形固定資産		64	44	株主資本		9,000	9,145
投資その他の資産		2,503	2,625	資本金		2,253	2,253
				資本剰余金		2,322	2,322
				利益剰余金		4,697	4,831
				自己株式		△272	△262
				評価・換算差額等		1,728	1,748
				少数株主持分		37	42
資産合計		23,390	22,003	純資産合計		10,767	10,935
				負債及び純資産合計		23,390	22,003

*記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



四半期連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期連結累計期間	
		平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	平成20年7月1日から 平成20年9月30日まで
売上高		15,807	9,466
売上原価		10,601	6,080
売上総利益		5,205	3,386
販売費及び一般管理費		5,024	2,684
営業利益		181	702
営業外収益		133	60
営業外費用		105	53
経常利益		208	708
特別利益		49	—
特別損失		65	40
税金等調整前四半期純利益		192	667
法人税、住民税及び事業税		95	56
法人税等調整額		35	236
少数株主損失		△4	△2
四半期純利益		66	377

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

当第2四半期連結累計期間	
平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	575
投資活動によるキャッシュ・フロー	△492
財務活動によるキャッシュ・フロー	△182
現金及び現金同等物に係る為替差額	△0
現金及び現金同等物の増減額	△100
現金及び現金同等物の期首残高	895
現金及び現金同等物の四半期末残高	794

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



商品のご案内

菓子



いろいろ
彩

ぬれ甘納豆、ミニようかん、きんつばようかん、ぜんざいなど井村屋自慢の小豆を使った和菓子の詰め合わせギフトです。



ミニようかん

煉、小倉には北海道産小豆を、抹茶には京都宇治抹茶を使用したミニようかんの詰め合わせです。



スイーツセレクト

カスタード、チョコレート、チーズの濃厚な3種のプリンと杏仁、コーヒーズんざい、アップルティーの彩り豊かなゼリーを詰め合わせました。

食品



ゆであずき

小豆の粒感を残した、風味も見た目もワンランクアップしたゆであずきに仕上げました。



お赤飯の素

北海道産小豆100%使用で、化学調味料、着色料不使用。安全・安心な砂糖と食塩だけの自然な味付けです。



お気に入りしるこ

お湯を注ぐだけの簡便性はそのままに美味しさをアップ! 小豆の風味豊かな「おしるこ」です。



カップしるこ

冷菓



BOX北海道大納言あずき最中

北海道産大納言小豆を使ったあんとは濃厚なバニラアイスの組み合わせが絶妙な味わいのモナカアイスです。



BOX京都宇治抹茶あずき最中

4つに分けて食べられる、北海道産小豆を使ったあんと香り豊かな抹茶アイスの組み合わせが絶妙です。

デイリーチルド



大豆屋和蔵3丁



大豆屋和蔵1丁

大豆屋和蔵

濃厚で滑らかな食感。長期保存可能なロングライフ豆腐です。豆絞りのパッケージは和の伝統と井村屋発祥の地・松阪の特産「松阪木綿」をイメージ。安心と美味しさをお届けする「大豆屋和蔵大豆ッ子」は井村屋の新しい豆腐ブランドです。



とろ〜りスイーツ・ドリンク
(苺のショートケーキ・レアチーズケーキ)



「飲むスイーツ」をコンセプトに、スイーツをとろ〜りとした食感に仕上げたドリンクです。場所を選ばず、手軽にどこでもお召し上がりいただけます。





北海道大納言あずき最中

三重県尾鷲産海洋深層水塩を使用した隠し塩仕立てのバニラアイスが大納言小豆あんとはマッチしています。



京都宇治抹茶あずき最中

石臼引き抹茶を使用した香り豊かな抹茶アイスと大納言小豆あんを組み合わせたモナカアイスです。

肉まん・あんまん



さいさい
彩葉づつみ

(豚肉とごぼうの梅肉あえ・湯葉とれんこんの炊き合わせ・かぼちゃのそぼろあなか)

小鉢に見立てた2色の生地が可愛らしく見た目も惹きます。野菜を中心にとした素材の美味しさがしっかり味わえます。



ピンクの豚まん

ピンク色の外観の可愛らしさが特徴の商品です。豚のミンチ肉とカット肉を使用したジューシーな味わいの肉まんです。



チルド 麗華肉まん

リーフ
麗華 素材にこだわった肉まん

三重県産豚肉、国産たけのこ、玉ねぎと主要原料を国産にこだわり、化学調味料を使用しない、より安全・安心な美味しさを目指しました。



冷凍 麗華肉まん



チルド 麗華あんまん



冷凍 麗華あんまん

リーフ
麗華 素材にこだわったあんまん

北海道十勝の契約農家栽培の小豆を使用したつづあんです。生地は米粉を使いしっとり食感であんとの相性もさらによくなりました。

アンナミラズ・ジュヴォー



アンナミラズ

アメリカ東部ペンシルバニアダッチの料理を原点にアメリカンフードとスイーツをお楽しみいただけるレストラン、アンナミラズは現在、品川駅前のウィング高輪店と横浜ランドマーク店の2店舗で営業しております。アメリカンホームメイドパイを中心に、アメリカンテイスト満載のハンバーガーやサンドウィッチなどを提供しております。特にアメリカンパイは店舗でクリームを絞っているためフレッシュな味わいをお楽しみいただけるほか、季節商品や昔懐かしいレシピの再現などにも力を入れ、いつでもお客様に美味しくお召し上がりいただけるよう努力を続けています。

ジュヴォー



ジュヴォーの当主フレデリック・ジュヴォー氏は、トップパティシエ集団「Relais Desserts International」(ルレ・デセール・インターナショナル)の副会長を務め、パティシエ&ショコラティエとして国内外で高い評価を得ています。

商品は多様なブチガトーやマカロン、パット・ドゥ・フリユイを中心にラインナップしておりますが、そのなかでも特にショコラは有名で、フランスのショコラガイドブックで4つ星評価にあたる、4タブレットを獲得している逸品です。

調味料



バナナパウダーを使ったクッキー

ストロベリーパウダーを使ったマフィン

JiAi



野菜ブイオン中華

今期の取組みとして「豆乳パウダー」、「マンゴーパウダー」、「ストロベリーパウダー」、「バナナパウダー」などのメニュー提案力を強化するため、その用途の開発に力を入れています。また、新たに井村屋の主力商材である「小豆」を使った「井村屋こしあんパウダー」や「井村屋小豆パウダー」の販売を開始し、市場からの高い評価を得ております。

動物性原料、化学調味料不使用で野菜のうまみを凝縮した野菜ブイオンに、7種類の野菜のうまみとごまの風味が特長的な「野菜ブイオン中華」が新登場。スープや炒め物、チャーハンの調味料としてお使い下さい。



トピックス

【食と情報とコミュニケーションの創造広場】 本社新社屋が竣工いたしました



三重県からユニバーサルデザインのまちづくり推進条例の適合証をいただきました。



ウェイティングホールの様子です。右側は受付カウンター、左側は商品展示ボックスとなっています。

コンセプト

【食と情報とコミュニケーションの創造広場】

サブコンセプト

- ① 人にやさしい場所にする
- ② 環境に配慮する
- ③ 安全・安心を心がける
- ④ 効率・技術・つながりを重視する

本社新社屋は10月28日に竣工を迎え、11月4日から業務を開始いたしました。新社屋にはメインコンセプトとサブコンセプトを掲げており、その考えに基づいた設計・建設がなされております。お客様と情報・コミュニケーションを通じ、環境変化に対応した企画・商品・サービスを提供し続ける場所。効率経営の機軸となってサービス・サポート・サセッションを行う基地。万が一の災害に対して本社機能を維持し、商品供給を絶やさず顧客利益を保守し、先人からの貴重な財産を絶やすことなく受け継ぐ場所。そのような場所の実現を通してステークホルダーのみなさまへのサービスの向上を図り、安全・安心な商品のご提供に絶え間ない努力を続けてまいります。



お客様との情報交流の場として賑わうよう願いを込めて、商談室を「販・SQUARE（にぎわい広場）」と命名しました。



「井村屋ギャラリー」には井村屋の歴史とアイデアが詰まった貴重な資料を展示しております。



多目的ホールです。株主総会もこちらで開催する予定となっております。



メインオフィスです。すべての部署がワンフロアに集い、業務を行うことで迅速かつ円滑なコミュニケーションを実現します。



株式の状況

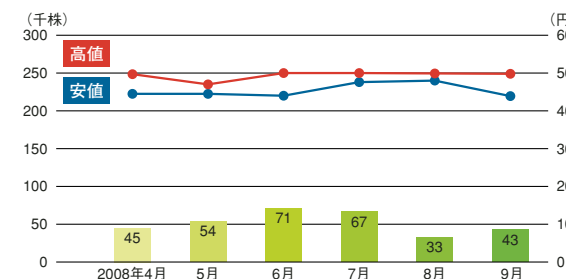
大株主一覧（平成20年9月30日現在）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,118,420	4.36
株式会社第三銀行	1,113,200	4.34
株式会社百五銀行	1,053,780	4.10
双日株式会社	965,190	3.76
井村屋取引先持株会	894,709	3.48
服部月松	824,666	3.21
瀬古製粉株式会社	726,152	2.83
株式会社りそな銀行	572,000	2.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティンベストメンツ株式会社信託口)	562,000	2.19
豊田通商株式会社	555,000	2.16

株式の状況（平成20年9月30日現在）

会社が発行する株式の総数 100,000,000株
 発行済株式の総数 25,644,400株 ※
 ※ 自己株式553,019株を含む

株価及び出来高の推移



	2008年4月	5月	6月	7月	8月	9月
高値	497	470	500	500	499	498 ^円
安値	445	445	440	476	480	439 ^円
出来高	45	54	71	67	33	43 ^{千株}

役員状況

取締役及び監査役（平成20年9月30日現在）

取締役 会長	山川 皓
☆ 取締役 社長	浅田 剛夫
常務取締役	竹田 節郎
常務取締役	山際 博生
常務取締役	前山 健
取締役	村田 清
取締役	中島 伸子
常任・常勤監査役	大杉 孝洋
常勤監査役	大西 邦雄
社外監査役	安藤 泰愛
社外監査役	土川 禮子

☆印は代表取締役であります。

執行役員状況（平成20年9月30日現在）

竹田 節郎	常務取締役兼上席執行役員 マネジメントグループ長兼財務部長
山際 博生	常務取締役兼上席執行役員SCM統括部長
前山 健	常務取締役兼上席執行役員マーチャングループ長 兼生産統括部長
村田 清	取締役兼上席執行役員内部統制統括室長
中島 伸子	取締役兼上席執行役員マーケティンググループ長 兼新規事業営業部長
落合 英美	上席執行役員、日本フード株式会社代表取締役社長
菅沼 重元	上席執行役員、北京京日井村屋食品有限公司副董事長 兼総経理、井村屋(北京)食品有限公司董事兼総経理
中山 富夫	執行役員マーチャングループ副グループ長 兼冷凍菓子事業推進部長
小竹 是	執行役員フードサービス事業部長
脇田 元夫	執行役員マネジメントグループ副グループ長 兼総務部長
伊藤 宏規	執行役員マーチャングループ副グループ長 兼開発部長
野口 純生	執行役員マーケティンググループ副グループ長 兼量販営業部長
大西 安樹	執行役員経営企画統括部長



原料へのこだわり。保存料不使用。
安全・安心・手軽な和菓子、できました。



井村屋がご提案するこだわりの冷凍和菓子 餡屋和蔵

井村屋製菓の商品がウェブで
お買い求めいただけます。



井村屋ウェブショップへのアクセスはこちら
<http://webshop.imuraya.co.jp>

井村屋ウェブショップは開店から3年目を迎え、
おかげさまでお買い求めいただくお客様も増え続けて
おります。今後さらに取扱い商品を充実させ、様々な
ご要望にお応えできるよう精進してまいります。

株主さま Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当金につきましては3月31日、中間配当を行う場合は9月30日といたします。
定時株主総会	毎年6月開催
定時株主総会の基準日※	3月31日（議決権の基準日）
公告掲載新聞名	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部 名古屋証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社本店及び全国各支店

注）※必要があるときは、取締役会の決議によりあらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

株主さまご優待

毎年3月31日現在及び9月30日現在の株主のみなさまに対し、当社製品を以下の基準により贈呈。

1,000株以上の株主さま

1,500円相当のオリジナル商品

3,000株以上の株主さま

3,000株以上の株主さまには1,500円相当のオリジナル商品に加えて1,500円相当のギフト商品を2種類のなかからひとつお選びいただけます。



この印刷物は環境に配慮した、
植物性大豆油インキを使用
しています。

<http://www.imuraya.co.jp>